

2023年度 活動状況

※定款第4条該当項

※	演奏会名	演奏回数	入場者数	備考	
第一項第一、二号	定期演奏会	24回	38,677人	【会員数】 Aシリーズ 754席 東京文化会館8回 Bシリーズ 1,134席 サントリーホール8回 Cシリーズ 861席 東京芸術劇場8回	
	プロムナードコンサート	5回	8,748人	【会員数】 827席 サントリーホール 5回	
	自主公演 特別演奏会	11回	16,998人	<都響スペシャル> サントリーホール 3回 東京文化会館 1回 東京芸術劇場 1回 <第九> すみだトリフォニーホール 1回 東京文化会館 1回 サントリーホール 1回 <八王子シリーズ> J:COMホール八王子 1回 <その他> 名古屋特別公演 1回 大阪特別公演 1回	
	小計	40回	64,423人		
	共催・提携公演 都響・調布シリーズ	1回	1,157人	提携：公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団	
	オーケストラ・キャラバン	3回	2,464人	共催：公益社団法人日本オーケストラ連盟 株式会社岩手日報社、株式会社岩手朝日テレビ 公益財団法人豊田市文化振興財団、豊田市 市民ホール文化事業実行委員会・小田原市	
	ボクとわたしとオーケストラ	2回	3,109人	共催：NPO法人いわきの子どもたちに音楽を届ける会 いわき芸術文化交流館アリオス 株式会社いわき市民コミュニティ放送	
	ふれあいコンサート	1回	647人	共催：東京都、公益財団法人日本チャリティ協会 公益財団法人江東区文化コミュニティ財団	
	小計	7回	7,377人		
	依頼公演	31回	37,892人	地方公共団体、文化振興団体等	
第二項	音楽鑑賞教室	38回	34,633人	主催：各区市教育委員会等 都内16区市	
	マエストロ・ビジット	1回	40人		
第一項及び第二項 第三号	映像配信等	17回 〔20回〕	—	映像配信及び配信用収録	
	小規模演奏会等	97回	16,242人		
	公開リハーサル・公開ゲネプロ	4回	196人		
	放送・録音	CD、DVD用録音等	0回 〔3回〕	—	〔 〕内は同時録音等
		CD、DVD制作	0回 〔3回〕	—	〔 〕内は同時録音等
		放送用録音、放送	12回 〔2回〕	—	〔 〕内は同時録音等
小計	12回 〔8回〕	—	下記 注1 参照		
合計		247回	160,803人		

注1 「映像配信等」「放送・録音」の〔 〕内は自主公演等の同時録音等であり、外書である。

<参考>公益財団法人東京都交響楽団定款

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 一 公開演奏
- 二 青少年のための演奏事業
- 三 その他の音楽芸術普及事業
- 四 その他前条の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業を推進するために行う音楽演奏事業及びその他の付帯事業

3 第1項及び第2項の事業は東京都において行うものとする。

1 事業の概要

音楽監督の大野和士、首席客演指揮者のアラン・ギルバート、終身名誉指揮者の小泉和裕、桂冠指揮者のエリアフ・インバルによる指揮者体制のもと、国内外から客演指揮者・ソリストを迎え、芸術性の高い先駆的で多彩な活動に取り組み、合計 247 事業、約 16 万 1 千人に演奏をお届けした。

楽団が主催する自主公演は、楽団の芸術活動の中軸をなす定期演奏会をソワレ公演の A シリーズ（東京文化会館）・B シリーズ（サントリーホール）、マチネ公演の C シリーズ（東京芸術劇場）の計 24 回実施。また、親しみやすいプログラムを中心として幅広い層に親しまれているプロムナードコンサートを 5 回、そのほか、特別演奏会として年末恒例の「第九」公演や「八王子シリーズ」、名古屋・大阪等での公演を計 11 回実施し、合計 40 回、約 6 万 4 千人を動員した。

共催・提携公演は、公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団との提携による「都響・調布シリーズ」公演、公益社団法人日本オーケストラ連盟他との共催による「オーケストラ・キャラバン」（盛岡・豊田・小田原）公演、2012 年より実施している被災地支援「ボクとわたしとオーケストラ」（いわき市）公演（2 回）のほか、東京都、公益財団法人日本チャリティ協会とともに実施した「障害者のためのふれあいコンサート」公演の合計 7 回実施した。

地方公共団体や文化振興団体等からの依頼公演は、実行委員会形式で開催した「TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]」のオーケストラ公演ほか、東京・春・音楽祭、フェスタサマーミュージック KAWASAKI 2023、新国立劇場 2023/2024 シーズンオペラ『トリスタンとイゾルデ』等、合計 31 公演に出演した。

青少年を対象とした音楽鑑賞教室（オーケストラ公演）を都内 16 区市にて合計 38 回実施し、オーケストラ鑑賞の機会や演奏家とのふれあいを通じて、約 3 万 5 千人の子供たちに音楽の持つ魅力や楽しさを伝えた。

小規模演奏会は、多摩・島しょ地域、都立病院や特別支援学校等での演奏を継続的に実施したほか、教育庁との連携事業や「サラダ音楽祭」でのミニコンサート等、合計 97 回実施した。

また、メディアへの露出も積極的に行い、ファンの拡大を図った。TOKYO MX2 の番組『アンコール！都響』では、過去の演奏会から厳選した曲をノーカットで放送している。加えて、演奏映像のインターネット配信に力を入れ、自主公演における過去公演の映像配信や配信用映像の収録等、多岐にわたる活動を繰り広げた。

2 事業の内容

2023年度の演奏活動は、定期演奏会を中心に年間247事業を実施した。

I 公開演奏（定款第4条第1項第1、2号）

(1) 自主公演

ア 定期演奏会（24回）

当団の芸術活動の中軸をなす定期演奏会は、1965年の楽団創立以来、創造性に満ちた幅広い内容の企画による演奏会開催を目標とし、日本の音楽創造活動の牽引力となるべく、高い水準の先駆的な活動を継続している。

Aシリーズを東京文化会館で8回、Bシリーズをサントリーホールで8回、Cシリーズを東京芸術劇場で8回（うち3回は平日昼開催）、合計24回開催した。

音楽監督大野和士は5公演に登壇し、マエストロならではの趣向を凝らした4つのプログラムを披露。いずれも高水準の演奏で聴衆から高い支持を得た。

シーズンの開幕となる4月の第972回は、2015年4月の音楽監督就任記念公演でも採り上げたマーラーの交響曲第7番を指揮。マエストロがかねてより好んで採り上げてきた作品に新たな視点で臨み、オーケストラの幅広い表現力を遺憾なく引き出した。続く第973回では、マーク＝アンソニー・ターネジの《タイム・フライズ》をコロナ禍での2度の延期を乗り越えて、満を持して日本初演したほか、2021年ジュネーヴ国際音楽コンクール・チェロ部門で優勝した上野通明がコンクールのファイナルで演奏した難曲、ルトスワフスキのチェロ協奏曲を披露した。10月の第983回では2005年から2008年まで都響常任指揮者を務めたジェイムズ・デプリーストの没後10年を記念した演奏会を開催。デプリーストが都響を最後に指揮したコンサートに出演したイザベル・ファウストを迎えたシューマンのヴァイオリン協奏曲、マグヌス・リンドベルイ作品の日本初演、ベートーヴェンの交響曲第7番でデプリーストに思いを馳せた。12月の第988回、第989回は、レーガーとラフマニノフの生誕150年を記念したプログラム。レーガー晩年の作品《ベックリンによる4つの音詩》とラフマニノフのスペシャリスト、ニコライ・ルガンスキーを招きピアノ協奏曲第1番を採り上げた。

首席客演指揮者アラン・ギルバートは、7月の第979回に登壇。“ホルンの王”と評されるベルリン・フィル首席ホルン奏者のシュテファン・ドールを迎えたモーツァルトのホルン協奏曲第4番や、R. シュトラウスのアルプス交響曲などを指揮し、雄大なオーケストラサウンドで聴衆を沸かせた（都響スペシャルと同演目）。

終身名誉指揮者小泉和裕は、ドイツ・ロマン派を代表する作曲家の一人メンデルスゾーンの傑作を中心に採り上げた第974回、2024年の生誕200年に向けてブルックナーを特集した第984回、ロシア音楽傑作選（第987回）の3公演を指揮。都響とともに偉大な作曲家たちの作品と向き合い、高みに迫る演奏を披露した。

桂冠指揮者エリアフ・インバルは、88歳の誕生日を迎えた2月の第994回でバーンスタイン《カディッシュ》を指揮した（都響スペシャルと同演目）ほか、第995回では【インバル／都響第3次マーラー・シリーズ①】と題し、3度目のマーラー交響曲全曲演奏に臨んだ（都響スペシャルと同演目）。いずれも強靱なサウンドによる

鮮烈な演奏で絶賛を博した。

客演指揮者を迎えた各公演では、指揮者それぞれの個性や解釈が光るバラエティ豊かなプログラムを展開した。

第975回は、山田和樹が三善晃の反戦三部作を指揮。渾身のタクトで鎮魂と非戦の思いを描き出し、聴衆の心を揺さぶった。第976回は、尾高忠明が登場し、十八番であるエルガーから交響曲第2番を採り上げ聴衆を惹きつけた。第977回、第978回にはマルク・ミンコフスキが4年振りに登壇し、ブルックナー交響曲第5番を指揮。新たなブルックナー像を提示した。9月の第980回、第981回には、コロナ禍により来日が叶わなかった、サッシャ・ゲツツェルと、人気ヴァイオリニスト、ネマニャ・ラドウロヴィチが満を持して都響に初登場。両公演ともゲツツェルの面目躍如たる指揮とラドウロヴィチの白熱した独奏で会場は熱狂の渦に包まれた。第982回は、ローレンス・レネスがサリー・ビーミッシュのヴィオラ協奏曲第2番《船乗り》の日本初演（独奏：タベア・ツィンマーマン）とラフマニノフの交響曲第2番を指揮し、実力を存分に発揮した。第985回は、フィンランドの名匠オスモ・ヴァンスカがシベリウス・後期交響曲集で待望の初共演を果たし、第986回では、ジョン・アクセルロッドが、ショスタコーヴィチの交響曲第5番等で都響に再登場した。第990回は、ポーランドの巨匠アントニ・ヴィトがペンデレツキの交響曲第2番《クリスマス・シンフォニー》、ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番（独奏：反田恭平）等を指揮し、色彩豊かで説得力のある演奏を展開した。

特筆すべきこととしては、現代最高峰の現役作曲家の一人であり、指揮者としても活躍するジョン・アダムズを招いた第992回、第993回が挙げられる。日本はおろかアジアのオーケストラを指揮したことがなかったアダムズを迎えられたことは、日本の音楽受容史において歴史的な出来事であり、文化・芸術のさらなる発展の可能性を示す結果となった。

イ プロムナードコンサート（5回）

プロムナードコンサートは、親しみやすい名曲と第一級の出演者がステージを彩る休日マチネのコンサートとして、幅広い音楽ファンから好評を得ているシリーズである。2023年度はサントリーホールで5回実施し、クラシック音楽入門者も楽しめるプログラムでオーケストラ音楽の一層の浸透を図った。

No. 402は、終身名誉指揮者小泉和裕が38年ぶりに都響でベルリオーズ《幻想交響曲》を指揮。2022年にBBCプロムスにデビューしたクララ＝ジュミ・カンをソリストに迎えたブルッフのヴァイオリン協奏曲第1番とともに充実した演奏を繰り広げた。No. 403は、首席客演指揮者アラン・ギルバートがニールセンの交響曲から、ひときわ傑作の呼び声高い第5番を採り上げた（都響スペシャルと同演目）。後半には、現代最高のピアニストの一人であるキリル・ゲルシュタインがラフマニノフ生誕150年を記念してピアノ協奏曲第3番を披露し、巧みな技巧と音楽性で聴衆を魅了した。No. 404には、2018年に初登壇したローレンス・レネスが再登場。プロコフィエフ《ロメオとジュリエット》を組曲版と全曲版からレネス自身がセレクションし、作品の魅力を存分に聴かせ、名ヴァイオリスト、タベア・ツィンマーマンは、モーツァルトのクラリネット協奏曲（ヴィオラ版）を演奏し、好評を博した。No. 405は、2022年1月に予定されながらコロナ禍で延期となっていた上野耕

平委嘱によるデュビュニョンのサクソフォン協奏曲世界初演と、サン=サーンスの名曲の組み合わせを大友直人の指揮でお届けした。No. 406 は、桂冠指揮者エリアフ・インバルが登壇し、ベートーヴェン、ブラームス、ドヴォルザークという大作曲家たちの名曲をエネルギーギッシュな指揮でお贈りした。

ウ 特別演奏会（11回）

① 都響スペシャル（5回）

10月の都響スペシャルで音楽監督大野和士が日本を代表するピアニストの一人として不動の人気を誇る藤田真央とブラームスのピアノ協奏曲第1番で共演した。また、7月は首席客演指揮者アラン・ギルバートが2公演に登壇し、定期演奏会、プロムナードコンサートと同演目の2プログラムを指揮。さらに、2月には桂冠指揮者エリアフ・インバルがバーンスタイン《カディッシュ》（第994回定期演奏会と同演目）とマーラーの交響曲第10番（第995回定期演奏会と同演目）を採り上げた。

② 第九公演（3回）

年末恒例の「第九」公演は、首席客演指揮者アラン・ギルバートが登壇し、すみだトリフォニーホール、東京文化会館、サントリーホールで各1回実施した。

③ その他（3回）

多摩地域の聴衆拡大を意図し、11月に都響・八王子シリーズを実施。加えて、音楽監督の大野和士が指揮を執り、名古屋特別公演・大阪特別公演を2年ぶりに開催した（第972回定期演奏会と同演目）。

（2）共催・提携公演（7回）

ア 都響・調布シリーズ（1回）

身近な会場での演奏会開催を求める音楽ファンのニーズに応えるとともに、多摩地域の活性化を意図したシリーズで、ホールと連携することにより地域との繋がりを深めている。2001年から公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団との提携により実施しており、本年度で24回目を迎えた。ローレンス・レネスの指揮で、9月に調布市グリーンホールで開催した。

イ オーケストラ・キャラバン（3回）

文化庁のアートキャラバン2（統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業）の一環として日本オーケストラ連盟に加盟するオーケストラが参加し、全国各地で開催された事業である。都響は9月に盛岡市（指揮：小林研一郎、ヴァイオリン：周防亮介）と豊田市（指揮：ローレンス・レネス、ヴァイオリン：服部百音）、11月に小田原市（指揮：ジョン・アクセルロッド、ヴァイオリン：アレクサンドラ・コヌノヴァ）で公演を実施した。

ウ ボクとわたしとオーケストラ（2回）

東日本大震災後の2012年2月に、福島県いわき市内全域の小中学生を対象とした初めてのオーケストラ公演を開催して以来、いわき市の子供たちを音楽で励ます目的で実施している。12月にNPO法人いわきの子どもたちに音楽を届ける会、い

き芸術文化交流館アリオス、株式会社いわき市民コミュニティ放送（SEA WAVE FM いわき）との共催で開催した。

エ ふれあいコンサート（1回）

障害を持つ方やそのご家族を対象とした演奏会を、東京都及び公益財団法人日本チャリティ協会と連携して実施しており、本年度で40回目を迎えた。

依頼公演（31回）

ア 都内（15回）

東京・春・音楽祭（4月）、八王子「ドラゴンクエスト」公演（6月）、湯浅譲二 作曲家のポートレート（8月）、メトロポリス・クラシックス公演（11月）、日赤チャリティーコンサート（1月）、都民芸術フェスティバル公演（2月）、新国立劇場 2023/2024 シーズンオペラ『トリスタンとイゾルデ』（3月）に出演した。加えて、東京文化会館の「響の森」コンサート（5・1月）と「夏休み子ども音楽会」（7月）に出演した。

イ 地方・近郊公演（6回）

フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2023（7月）、福井公演（9月）、長野公演（10月）、静岡公演（11月）に出演し、都響の認知拡大とともにオーケストラ音楽の一層の浸透と裾野の拡大を図った。

ウ TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]（10回）

サラダ音楽祭は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を文化の面から盛り上げる取組「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の一環として2018年に誕生した音楽祭である。サラダ=SaLaDの由来である Sing and Listen and Dance～歌う！聴く！踊る！をコンセプトに、誰もが音楽の楽しさを体感・表現できるプログラムを展開している。

オーケストラ公演は、日比谷野外音楽堂での「野音 de オーケストラ」、東京芸術劇場での0歳児から入場可能なコンサート「OK！オーケストラ」（2公演）と演出振付家の金森穰が率いる日本を代表するダンスカンパニーNoism Company Niigata（ノイズム・カンパニー・ニイガタ）とコラボレーションした「音楽祭メインコンサート」のほか、多摩地域で「プレミアムコンサート」（6公演）を開催した。さらに、「歌」や「ダンス」、「演奏」等のワークショップに加え、ミニコンサートや教育プログラムを実施した。

II 青少年のための演奏（定款第4条第1項第2号）

（1）音楽鑑賞教室（38回）

次代を担う子供たちに質の良い音楽を提供し、音楽・文化を愛する若者を育てていくことは、青少年育成に力を注ぐ都響の重要な使命の一つである。事前に教員や教育委員会等と打ち合わせを重ね、子供たちに親しみやすい曲から本格的なクラシック音

楽まで、プログラム、企画、構成に工夫を凝らしており、子供たちのみならず関係者にも好評を得ている。本年度は都内 16 区市の各小・中学生を対象に、各地のホールにて 38 回実施した。

(2) マエストロ・ビジット (1 回)

都響指揮者 (マエストロ) 自らが、楽員とともに都内小・中学校等を訪問して特別授業を行い、子供たちとの対話を通じて音楽とオーケストラへの理解と音楽を創り上げていく楽しさや興味を深める取組である。2004 年度より実施しており、本年度は音楽監督の大野和士が都立西高等学校を訪問し、特別授業を行った。

Ⅲ その他の事業 (定款第 4 条第 1 項第 2、3 号及び第 2 項)

(1) 映像配信等 (17 回 [20 回] ([] 内は同時録音等))

映像コンテンツの需要拡大に伴い、YouTube 等での映像配信を継続して実施し、自主公演における新規の収録配信のほか、過去公演の映像等を配信。都響の演奏に触れる機会を創出し、ファンの拡大を図った。

依頼公演 (2 公演) において、ライブ配信を実施した。

(2) 小規模演奏会等 (97 回)

顔の見えるオーケストラとしてより多くの方々へ音楽を届けることを目指し、2002 年度から小規模アンサンブルを中心としたアウトリーチ型の演奏会を積極的に実施している。

教育庁が実施した「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」の体験活動プログラムとして都内小・中・高等学校で演奏を行った。また、福祉施設や特別支援学校等にて演奏した「ふれあいミニコンサート」(共催:一般財団法人東京都弘済会)、「音楽の贈りものコンサート」(主催:公益財団法人メトロ文化財団)等、地域の方々とのふれあいの場を創造した。

東京都以外の地域へも積極的に出向いており、被災地支援として岩手県野田村での演奏会を本年度も実施し好評を博した。そのほか、八丈島、御蔵島、新島、式根島、三宅島、青ヶ島、父島、母島、利島といった島しょ地域や多摩地域等、様々な場所で演奏会を実施し、活動の幅を広げた。

(3) 公開リハーサル・ゲネプロ (4 回)

TMSO サポーターを対象とした公開ゲネプロを定期演奏会、プロムナードコンサートにて実施した。

(4) 放送・録音 (12 回 [2 回] ([] 内は同時録音等))

2021 年にスタートした TOKYO MX2 の番組『アンコール! 都響』では、過去の演奏会から厳選した曲がノーカットで放送された (9 回)。このほか、CD 化を想定し同時録音を実施した。